

## お掃除 豆知識 ~ 汚れと洗剤の相性 ~

洗剤を使用の際は、使用方法によっては人体に影響を及ぼすおそれがあったり、製品に不具合が生じたりする場合がありますので、使用上の注意をよく確認してください。

洗剤の性質と種類	汚れの種類	特徴・注意点
<p>アルカリ性洗剤</p> <p>過炭酸ナトリウム 重曹 セスキ炭酸ソーダ</p>	<p>酸性の汚れ</p> <p>油汚れ シンクや排水口のヌメリ 皮脂汚れ</p>	<p>換気扇やコンロの五徳などのギトギトした油汚れは、過炭酸ナトリウム系の洗剤を50 ~ 60 のお湯に溶かして使うと有効です。</p> <p>簡単な油汚れなら弱アルカリ性の重曹やセスキ炭酸ソーダ洗剤で十分です。</p> <p>アルカリ性のきつい洗剤はゴム手袋などをつけて使用しましょう。</p>
<p>酸性洗剤</p> <p>クエン酸 酢 トイレ洗剤 (サンポール等)</p>	<p>アルカリ性の汚れ</p> <p>水あか・石鹸カス 鏡のウロコ汚れ トイレの尿はね 電気ポットの水あか</p>	<p>アルカリ性の汚れの他に、アンモニア臭・魚の臭い・たばこの臭い等にも有効です。</p> <p>金属部分やメッキ部分等に拭き残しがあるとサビにつながるので、しっかり拭き取るか洗い流すかしましょう。</p>
<p>中性洗剤</p>	<p>いろいろな場所に使える万能洗剤</p> <p>基本的には中性洗剤で掃除 それでも落ちない汚れを酸性またはアルカリ性洗剤でお手入れするのがベスト</p>	<p>中性洗剤は、あらゆる汚れに穏やかに効きます。 手肌にも優しく、食器洗いや住まいのマルチクリーナーとして幅広く使われています。 ただ、汚れ落としの効果はアルカリ洗剤や酸性洗剤には劣ります。</p>

# お掃除 豆知識 ~ 汚れと洗剤の相性 ~

洗剤を使用の際は、使用方法によっては人体に影響を及ぼすおそれがあったり、製品に不具合が生じたりする場合がありますので、使用上の注意をよく確認してください。

洗剤の性質と種類		汚れの種類	特徴・注意点
漂白剤	酸素系漂白剤	まな板・スポンジの除菌 色柄物のシミ抜き ビニールクロス 畳のカビ取り 洗濯槽のお手入れ	<p>酸素系漂白剤とは、過酸化水素水または過炭酸ナトリウムを主成分とする漂白剤。</p> <p>主にシミ抜きや漂白、除菌、消臭などの効果がありますが、塩素系に比べると効果は穏やかなので、色物や柄物にも使用できます。</p> <p>洗濯槽を掃除するときは漂白剤を入れて洗濯機を回すと汚れが徐々に浮き出てきます。</p>
	塩素系漂白剤	お風呂の黒カビや黒ずみなど頑固な汚れ 台所用品の漂白	<p>次亜塩素酸ナトリウムを主成分とするアルカリ性の漂白剤。</p> <p>塩素系は非常に洗浄力・漂白力・除菌・殺菌力が強い。 カビの胞子を殺菌し、さらに漂白してカビを取る効果があります。</p> <p>注意 酸性タイプの洗剤と一緒に使用するのは厳禁！ 化学反応を引き起こして有毒ガスが発生します</p>
	還元型漂白剤	鉄分による黄ばみの漂白に効果的 (40~50のお湯を使うことで効果を発揮)  白もの衣類の鉄サビや赤土の汚れ 注意 色物は変色の恐れ有り ボタン・ファスナーが付いた物も注意	<p>上記の 酸素系・塩素系漂白剤 は 『酸化型漂白剤』で、酸化（酸素と結びつける）することで色素を分解します。 それに対し『還元系漂白剤』は反対に酸素を奪い取るはたらきを活用して色素を分解します 除菌・殺菌効果はあまり期待できない</p> <p>市販品では衣料用洗剤のハイドロハイター(花王)など裏技で、例えば浴室にヘアピンを置きっぱなしにしてサビの形が付いた時、こすってもなかなか落ちません。そんな時ハイドロハイターをお湯でペースト状にしてサビの部分に塗って30分程放置しブラシでこすって水で洗い流せば落ちるそうです</p>